

神道文化学部 神道文化学科における教員養成像

【社会（中学校一種）】

神道文化学部では、國學院大學としての人材育成の目的、及び「神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする」という神道文化学部の人材育成に基づいた教育カリキュラムを展開しています。これにより、神道を中心とする日本の伝統文化と、内外の諸宗教およびそれに関連する宗教文化の意義、役割・機能への比較理解にもとづき、自らの主体性と他者に対する寛容の精神を体現し、かつ国際化・情報化した現代社会に必要な教育へと展開できる教員を養成しています。

より具体的には、日本の伝統文化と内外の諸宗教およびそれに関連する宗教文化について、比較を通じて広く深い知識修得を基礎として、伝統文化・宗教文化を起点としつつ、基礎的・基本的な知識、概念や技能について包括的に教育しうる力、社会的事象の意味・意義について、自らの主体性を保持しつつ、現代社会における価値の多様性をふまえた理解にもとづく社会的な見方・考え方を習得させ、表現へと導く力、神道ならびに日本の伝統文化への関心を喚起するとともに、宗教文化をはじめとする世界各地の文化について地理・歴史・現代社会の各観点からの学びを提供し、社会参画の意義を自ら探究するようにながす力の3つの力を身につけた教員を養成します。

【公民（高等学校一種）】

神道文化学部では、國學院大學としての人材育成の目的、及び「神道を中心とする日本の伝統文化の理解及び修習並びに内外の諸宗教及び関連する宗教文化の分析と比較を通して、国際化され情報化された現代社会の発展に寄与し社会の健全な形成に貢献する人材を育成することを目的とする」という神道文化学部の人材育成に基づいた教育カリキュラムを展開しています。これにより、神道を中心とする日本の伝統文化と、内外の諸宗教およびそれに関連する宗教文化の意義、役割・機能への比較理解にもとづき、自らの主体性と他者に対する寛容の精神を体現し、かつ国際化・情報化した現代社会に必要な教育へと展開できる教員を養成しています。

より具体的には、日本の伝統文化と内外の諸宗教およびそれに関連する宗教文化について、比較を通じて広く深い知識の修得を基礎として、それらの知識にもとづく学びを提供し、さらに現代社会の諸課題の探究へ生徒をみちびく力として、教員として必要な、神道を中心とする日本の伝統文化と世界の諸宗教文化の理解を起点として、現代の社会の諸課題についての主体的な考察へといざなう力、神道や諸宗教についての自らの理解を基礎と

して、世界でさまざまに展開してきた思想、哲学、宗教における倫理的な諸価値についての理解と思索の機会を生徒に提供し、人間としてのあり方や生き方を主体的に考察するようながすことによって、人間尊重の精神、自然環境・生命に対する畏敬の念、他者との共生を理解させる力、日本社会における宗教・信仰の諸相や世界の宗教的多様性の理解を基礎として、法や規範、経済活動における倫理性の意義や役割についての学びを提供し、現代社会の課題に照らしながら持続可能な社会のあり方の探究へと展開させる力、の3つの力を身につけた教員を養成します。